

さくら教室だより

令和6年2月15日
東久留米市立第九小学校
校長 山本 真美枝
特別支援教室 担任



寒さが厳しくなってきました



東京でも雪がちらつきました。朝晩はとても冷えます。また、空気も乾燥し、インフルエンザなども流行しています。手洗い・うがいを習慣化していくためにも、ハンカチ・ティッシュを忘れずに持たせてください。



○2月・3月の大まかな予定

- 2月13日(火)：3学期個人面談 始
- 3月13日(水)：3学期個人面談 終
- ：指導終了
- 3月15日(金)：巡回終了

※個人面談のアンケートをまだ提出していただいていない方はお急ぎください。

○今回の面談について

※以下にある指導計画は架空の児童のものです。

今回の面談では、【連携型個別指導計画】の後期の評価について話し合います。担任は同席しません。

限られた時間の中で、質問などがございましたら、事前にまとめてきていただくと、面談がスムーズに進むと存じます。

来年度におけて、何か引継ぎしておきたいことがございましたら、面談の際にお伝えください。



東久留米市連携型個別指導計画 No.2				様式10	
				作成日：令和5年10月31日	
ふりがな	ひがしくるめ たろう	性別		学年・組	
児童氏名	東久留米 太郎				
在籍学校名	東久留米市立第九小学校	在籍学級担任名		特別支援教室担任名	
適宜するときの具体的な児童像					
(1) 相手の気持ちを考え、自分の行動をコントロールすることができる。					
(2) 集団に合わせて、気持ちを切り替えて考え行動することができる。					
在籍学級での短期指導目標と手立て及び評価					
短期指導目標を達成するための取組期間 (令和5年4月～令和5年10月)			短期指導目標の達成状況についての評価 (評価日：令和5年10月31日)		
短期指導目標	◎○△	(1) 授業中に嫌なことがあっても、我慢することができるようになってきました。また、周囲の状況をよく考えながら適切な言葉使いで話すことができました。			
(1) 相手が不快になる言葉を使わない。	○	(2) 担任の指示を聞き、やっていることを止めることができるようになってきました。たまに切り替えが上手くいかず、注意を受けることがあります。引き続き指導していきます。			
(2) 一言指示で行動できる。	△				
手立て					
(1) 不適切な行動が見られたときは、その場ですぐに指導する。					
(2) 口頭指示だけでなく、視覚支援を行いながら指示を出し、全体のあと、個別にも声掛けをする。					
特別支援教室での短期指導目標と手立て及び評価					
短期指導目標を達成するための取組期間 (令和5年4月～令和5年10月)			短期指導目標の達成状況についての評価 (評価日：令和5年10月31日)		
短期指導目標	◎○△	(1) 友達と適切な距離感を維持しながら協力することができる。			
(1) 友達と適切な距離感を維持しながら協力することができる。	○	(2) 嫌なことがあっても、自分なりに手段で気持ちを切り替えることができる。			
(2) 嫌なことがあっても、自分なりに手段で気持ちを切り替えることができる。	○	(2) 嫌なことがあっても、自分から廊下などに出てクールダウンを行うことができるようになりました。クールダウンの時間を短くできるように、引き続き支援していきます。			
手立て					
(1) SSTを通じて、相手と自分では嫌だと感じるものが異なることを理解させていく。					
(2) 怒りなどの落ち着かなくなる感情を視覚的に見える化しながら、アンダーマネジメントを教える。					
作成時の確認欄			評価時の確認欄		
校長	在籍担任	特別支援担任	評価者	校長	在籍担任

九小の HP のさくら教室というページで、過去のさくら通信がカラーで閲覧することができます。ご利用ください。

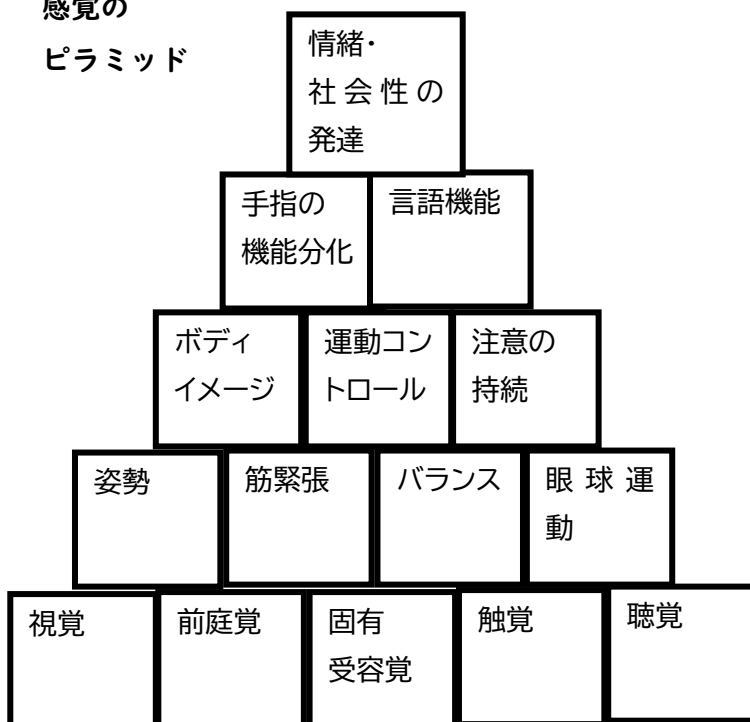
【さくら教室のちょこっとコラム】



○感覚統合

普段の生活の中で、お子様がどうしても他の子と違う行動をとってしまうということはありませんか？ もしかすると、その背景には感覚統合がうまくいっていない問題があるかもしれません。私たちは、普段、外部からの様々な情報を自分の感覚を通じて処理しています。しかし、この感覚で処理することが上手く機能していない場合、「姿勢が保持できない」「相手に触れられることを極度に嫌がる」「力加減や体の動かし方がぎこちない」などの問題となって出てくる場合があります。

感覚の
ピラミッド



外部からの情報を、様々な感覚から受け取り、それを自分の中で統合して、処理することで、適切な行動をとることができると言われてしています。

例えば、うるさい場所で話を聞くことになっても、相手の声だけを聴くことができます。これは、無意識に話している人の声だけを聴こうと、必要のない感覚と必要な感覚を分け、情報を処理している結果です。



感覚は基礎的なものから山型に積みあがっているイメージです。【字を綺麗に書く】という下から三段目にある【手指の機能分化】の練習だけをどんなにやっても、その下にある感覚がうまく育っていないと、なかなか上の段の内容を習得できません。

例えば、字を綺麗に書くために、全力でダッシュして、ピタッと止まったり【運動コントロール】、ブランコをやってみたり【前庭覚】、一見関係ないようなことなどを通じて、土台となる感覚を統合していくことも、大事な支援になります。ご家庭でも、お子様と一緒にたくさんの感覚遊びをしてみてください。

○こんな遊びが有効です

・前庭覚：

自分の身体の向きや傾き、スピードなどを感じる感覚。目の動きとも関係がある。ブランコや滑り台などが有効。

・固有受容覚：

身体の動かし方や力加減に関する感覚。ボディイメージや器用さ、感情のコントロールとも関わる。トランポリン、ジャングルジムなどが有効